

□ 表紙写真の解説

夏の夜空に輝く星、琴座のベガ、白鳥座のデネブ、鷲座のアルタイル。

これら3つの星を結び夏の大三角と言います。

また、中心には天の川が通っており、七夕の織姫（ベガ）と彦星（アルタイル）を隔てる川としても有名です。

（2016.6.12 早坂高原にて撮影 医事課 安田信玄）

主な内容

- 巻頭言 ————— 教養教育センター長就任のご挨拶
学生部長就任のご挨拶
- 特 集 ————— 連載 当院認定看護師の紹介
平成27年度決算
- フリーページ ———— すこやかスポット医学講座No.68
「腎不全には腎移植という選択があります」

教養教育センター長就任のご挨拶

教養教育センター長

松政 正俊

(生物学科 教授)



この度、本年4月1日付けをもちまして、教養教育センター長を拝命いたしました。創立120周年を迎える来年には看護学部が設置され、さらに矢巾新病院開院も控え、本学は大きな発展・成熟の時期を迎えつつあります。そのような重要な時期に、教学の先鋒ともいえる部署を取り纏める責務を担うこととなり、身の引き締まる思いです。岩手医科大学の建学の精神に根ざした教育を実践して参りたいと存じますので、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

本誌においても、20年近く前から編集委員の1人としてお世話になっております。今から12年前には、「教養部の新たな取り組み」と題した特集記事で、現在の教養教育センターに繋がる教養部での教育・研究の様子を、春夏秋冬の季節の流れに沿って紹介したことがあります(2004年4月号)。久々にファイルから探し出して読んでみますと、若造の講師が図々しく色々書いたものだと感じるとともに、何か置き忘れてきたものもあったのでは、と反省させられる点もあります。当時に比べますと学生数

は倍になり、教学の方針・戦略を変えざるを得ないことは確かです。しかし、強い意志を持って新しい試みに挑むと同時に、良い点は継承し続ける勇氣も必要不可欠です。教学への熱意を忘れずに個々の学生さんに向き合い、自らも精進しつづけること、それらが本学の建学の精神に繋がると信じております。

この数十年で大学を取り巻く社会は大きく様変わりし、入学してくる学生さんも極めて多様になっております。大学は、より戦略的に振る舞うことを求められています。その中で、医・歯・薬学部に加えて看護学部、それに医療専門学校を擁することになる本学は、私立の医療系総合大学として優れてユニークな立場を築きつつあります。医師、歯科医師、薬剤師そして看護師の全ての教育に携わる教養教育センターは、将来の岩手医科大学を担う人材、読者の皆様の後輩を育てる場への入口です。その重要性を肝に銘じて、日々努力を重ねて参りますので、今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

学生部長就任のご挨拶

学生部長

増田 友之

(病理学講座機能病態学分野 教授)



日頃、忙しい教育・診療・研究に携わりながら、学生教育に注力しておられる大学職員の皆様に敬意を表します。この度、学生部長を仰せつかりました。重責を全うすべく努力いたす所存です。

学生部は学生が学生生活を送る上で必要な環境を整える部と理解しております。親元を離れ、知らない土地での生活が大変な事は社会人として生活されている大学職員の皆様は既にご存知のことと思います。心細い思いをしている学生に援助の手をさしのべたいと思います。

現在学生を取り巻く環境は激変と言って良いと思われるほど、変化しています。内丸・矢巾両キャンパスに別れての教育体制ゆえの学生・教員の移動の問題、新カリキュラム移行期での教員同士の連携不足など、混乱が生じています。医科大学の第一の使命である学生教育が滞ったままでは次の世代を担う医学生に過度な負担をかけることとなります。今こそ全教職員が一体となって、学生教育に向き合う必要が生じていると思います。また、待ちに待った新病院移転新築後の教育体制を学生に早く明示することも必要になると考えられます。

また、学生部は学業を本旨とする学生の生活の手助け全般を行う部と理解しています。学業を行う上で健康面、生活面でお手伝いを致しますし、健康管理センター等関係各所との連携においてその役割を果たしていきたいと考えてお

ります。学生クラブ活動のあり方は以前より議論されておりますが、運動部においてはその活動の頂点として東医体・歯学体があるでしょうし、文化部の活動においては部の発表会、各種イベント参加があると思われれます。これらの行事がカリキュラム改編で以前にも増して忙しくなった学生生活の転換点・一服の清涼剤になれば更に希望にあふれる学生生活につながると考えられます。一方で基本的な生活維持のためには倫理的な教育配慮も必要になってきたと思われれます。医歯薬学生の増加により、学生も多様化しています。生じる事件も世相を反映してきています。社会人になる前の生活指導も厳しさを必要としてきました。医学生時代を経験してきた教育職員がすべて自分が経験したことと同じことを学生に求めるのでは無く、世相にあった新たな倫理的な教育指導が必要になると考えます。プロフェッショナリズムをどのように涵養するかを考えてみたいと思います。学生と語らうことによって、現代の学生の悩み・喜びを共有し、良い方向性を示すことで岩手医科大学学生として誇れる学生生活を行って頂くようお手伝いが出来ればと考えております。

後輩の成長を楽しみながら、先輩を追い抜く母校卒業生の成長を見守りたいと思います。皆様からご指導・ご鞭撻を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

当院認定看護師の紹介 No.13

— 看護部 —

平成9年に県内初の認定看護師が当院から誕生して以来、現在では、17分野37名の認定看護師が活躍しています。さらに、専門看護師も2分野4名が誕生しました。自部署の看護の質向上はもちろん、分野に特化した知識・技術を他部署にも出向き実践・指導・相談に応じることで、院内の看護レベルの底上げになっています。また、感染対策や褥瘡対策、緩和ケアなどの専任・専従の認定看護師の他にも、呼吸ケアサポートチーム（RST）や栄養サポートチーム（NST）の一員として、自部署での活動以外にも活躍する認定看護師が増え、チーム医療を推進するうえで重要な役割を担い診療報酬にもつなげることができております。さらに、平成24年に開設された看護外来では、外来患者さんやご家族の療養生活上の問題についてケアを提供し、QOLを高められるような支援を行っています。

そこで今回は、感染管理認定看護師及び救急看護認定看護師について紹介します。

感染管理認定看護師

医療安全管理部感染症対策室 看護師長 近藤 啓子

■ 感染管理認定看護師の役割

私は平成24年に日本看護協会感染管理認定看護師の資格を取得し、同年より医療安全管理部感染症対策室に勤務しています。感染管理は全ての患者さんにとってなくてはならないものであり、患者さんに関わる職員、委託職員、あるいはご家族など全員が感染対策を実施することで、患者さんの回復に貢献することができます。また、職員自身も自らを感染から守ることで、自分自身が感染源にならないように努める必要があります。このような一連の管理を多職種連携のもとで構築し、感染制御チーム（ICT）の一員として感染制御の文化を醸成していくことが感染管理認定看護師の役割です。

当院は地域医療の役割として高度先進医療を提供する立場にあり、各部署の専門性が非常に高いことや、委託業者や学生など様々な立場で患者さんに接する方が多いことが特徴であるといえます。どの部門・分野においても感染対策の基本は変わりませんが、様々な患者さんのリスクをアセスメントして効果的に実践する必要があります。それぞれの部署との情報交換を大切にしたいと思っています。また、感染対策のベースには、清潔な療養環境が欠かせません。例えば、空調の清浄度管理や安全で清潔な水や栄養の提供、廃棄物等による汚染の拡大防止などは全ての患者に必要です。さらに、滅菌物や衛生材料、医療機器の清潔管理も重要です。清潔な環境を維持し、医療機器や材料を清潔に扱うことが患者さんの一日も早



い回復に寄与していることを職員全員が意識できるように関わっていきたいと思います。

私自身は、感染管理認定看護師を目指した時の配属先は高度救命救急センターでした。重症患者が多い中持ち込まれる感染症も多いため、耐性菌等が伝播しやすい現状にあり、複数の保菌・発症者の感染対策に翻弄されている状況でした。アウトブレイクは、起こってしまったからでは多くの労力とコストが発生します。普段から必要な対策をシンプルに確実に実施することで院内感染を防ぎ、患者・家族ケアの時間がしっかり確保できるような体制を作りたい、と考えたことが目指したきっかけです。現在は感染症対策室の専従として活動しているため、直接患者さんと係ることは少なくなりましたが、ラウンド等を通して院内の感染対策のレベルが高まっていることを実感しています。

■ 院内活動

ICT ラウンドでは、各部署のナースステーションや病室、リネン室や汚物処理室が清潔に管理されているかどうか、チェックリストをもとに医師・薬剤師・検査技師・看護師の多職種チームでラウンドを実施しています。ラウンド評価に基づき臨床現場のみなさんと改善策を考える中で、実施可能な対策を提案することを意識し、ラウンド方法や報告書を毎年工夫・改善しフィードバックするように心掛けています。

また、リンクナース会の運営として、リンクナースが自部署での役割を発揮できるように意識して関わり、学習会の開催や4つの部会活動（中心血管ライン関連感染（BSI）・手術部位感染（SSI）・ゾーニング・啓発）の指導・支援を行っています。さらに、看護部で主催している実践指導者ナース（PLN）の育成コースに本年度より感染管理コースも追加され、現場での実践・指導力が高まるよう研修を予定しています。リンクナースや感染係等の経験を通し感染対策に興味をもち、共に感染対策を推進してくれる仲間が増えることをとても楽しみに思っています。

その他、各部署の協力のもと、中心ライン関連サーベイランスと手術部位感染サーベイランスを実施し、日常のデバイス管理などの評価指標として活用し改善に役立て



ています。さらに2年前からは、手指消毒薬使用量の目標値を看護部の部署目標の評価尺度として設定し、リンクナース会の活動の柱となっています。適切なタイミングの手指衛生を推進することで、使用量の増加はもちろんのこと、接触予防策の評価指標でもあるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の検出率が減少してきています。

■ 院外活動

平成24年度診療報酬改定により、「感染防止対策加算1（400点）」および「感染対策地域連携加算（100点）」を取得し、地域の他施設との連携が強化されました。具体的には、当院と同じ「感染防止対策加算1」を取得している施設との相互ラウンド、また、「感染防止対策加算2」を取得している5施設と年4回のカンファレンスおよびラウンドによる評価・指導を行っています。それぞれが毎年目標を掲げ改善に取り組むことで、感染管理の知識と技術が地域に着々と浸透していることを実感しています。

また、私立大学感染対策協議会では看護師部会による取り組みや、関東近郊の私立大学病院と毎年相手校を交換しての相互ラウンド受け入れと訪問を行っています。受け入れの際は、外部のICTに評価されることでの新たな気づきがあり、訪問し評価する立場の時は根拠を踏まえた評価の重要性を学ぶことができ、相互の感染制御のさらなる充実に寄与しています。

■ おわりに

当院は平成31年に病院移転を控えており、今後ますます多職種連携の強化が必要とされます。臨床現場の状況に即し患者・家族の立場に立って感染制御文化の醸成ができるように、多くのことを吸収し努力していきたいと思えます。

救急看護認定看護師

救急センター 看護師 佐々木 美里

■ 救急看護認定看護師の役割

救急医療は、老若男女・診療科を問わず、緊急性の高い・急病や事故、さらには災害医療など、様々な場面において初期段階に行われる医療です。発症・受傷直後の迅速な判断と処置は、患者の予後を左右すると言っても過言ではありません。少ない情報と限られた時間の中で、表面化していない危険な兆候まで察知できるように患者のアセスメントを行います。そこから病態や経過を予測し、できる限り早期に生命の危機から脱することができるように、あるいは重篤化しないように医師やコメディカルと協働し医療を提供しています。

外傷患者においては「適切にトリアージされた負傷者を、適切な時間内に、適切な外傷診療機関へ搬送すること」で、受傷から決定的治療（手術や止血など）を開始するまでの時間が1時間を超えるか否かによって生死が分かれてくると言われてい



ます。私は、ドクターヘリに搭乗しフライトナースとして、プレホスピタル（病院前）から看護介入し、ゴールドエンワールと言われている1時間以内に決定的治療ができるように、医師とのコミュニケーションを図り、質の高い医療を提供しています。そして、救命できた達成感を看護のエネルギーに変えて、危機的状況を脱した患者の看護につなげ、急性期から患者を1人の生活者にとらえ、退院後の生活までを見据えて、高度な救急看護の実践を示し、他の看護師の役割モデルとなれるように日々努力しています。

また、多くの患者・家族は突然の出来事であることに重ねて、救急医療のめまぐるしいスピードに、不安や恐怖や悲嘆を抱き、精神的にも危機状態に陥ります。そのため、救命が優先される状況下においても、倫理的配慮と心理面にも重視したケアを提供しています。また、不慮の事故や突然の疾病により救急搬送され、わずかな時間で愛する人を失う家族の悲しみは計り知れません。わずかな時間でも、患者と家族に寄り添うことで、家族が「精一杯やってもらった」と納得でき、患者の死を受け止められるように、限られた時間の中で家族の思いを支えることも救急認定看護師としての役割であると考えます。

■ 院内外の活動

昨今、「救急患者のたらい回し」「ドクターヘリの導入」「度重なる災害」により、国民の医療に対する関心が高まっており、プレホスピタル、災害医療と救急医療に求められる役割はますます高まっている現状があります。救急医療界では救急医療に従事するスタッフの質の維持、向上のために、救急医療体制が整備されてきました。岩手県では2012年5月8日よりドクターヘリの運航が開始となり、救急現場に医師・看護師が投入され、いち早く初期治療を開始することが可能となり、外傷患者においてはPTD（Preventable Trauma Death: 防ぎえた外傷死）の減少や救命率の向上、後遺症の軽減につなげられるように活動しています。救急患者が安心して救急医療が受けられるように、チーム医療の標準化に向けた様々な救急に関するセミナーを受講し、日々自己研鑽することが救急医療に携わる医療者にとって重要な責務であると考えます。そして、後輩を指導し、救急医療の水準を維持・向上させていくため、シミュレーションを取り入れた勉強会なども開催しています。また、フライトナースの育成のため、救急車内でのシミュレーション教育、ヘリ基地での実践的な指導に力を注ぎ、病院内のみならず、病院前から活躍できる看護師の育成に励んでいます。

また、2015年10月からウォークイン患者に対しての窓口トリアージも開始されています。緊急性のある患者を見逃さず、軽症の患者には安心してお待ちいただくために、状態を的確に判断するフィジカルアセスメントや心理状態を把握し、不安を緩和するコミュニケーションを駆使してトリアージを行っています。緊急度判定に悩む症例もあ

り、様々な症例を経験しながら、医師・看護師・事務職員と検討会を重ね、救急医療の向上に努めています。

院外の活動としては、岩手県立大学看護学部での「呼吸理学療法」のインストラクターや「救急救命士の血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖投与の実施のための講習」での講師を担当しています。救急医療には、救急救命士との協働も必須です。患者の社会復帰を視野に入れて、最善の救急医療を行うためにコメディカルとのチームワークを大切に情報共有し、連携して協働していくための調整役としても担っています。

また、熊本地震に対して、DMAT（Disaster Medical Assistance Team）として、4月16日から19日まで災害支援活動を行ってきました。岩手医大DMATの主な役割は、南阿蘇村の避難所の情報収集でありました。東日本大震災時の避難所巡りをした経験を基に、避難所までの道路状況、ライフライン、衛生環境面の把握や老健施設の訪問をし、必要とされているニーズを把握し、できるだけ早くそのニーズが満たされるように、災害対策本部との連携を図ってきました。他の施設のDMATと一緒に活動し、自分の災害に対する知識や判断力不足を痛感してきました。今回の活動を通して、やはり災害は繰り返されるということを念頭に、日頃からの備えと訓練の重要性を感じてきましたので、訓練の企画運営を続けていきたいと思っています。



■ おわりに

医療や看護の高度化、専門化に伴い、救急看護認定看護師としての、救急医療のニーズが求められています。救命技術から危機的状況にある患者および家族への精神面の看護に至る幅広い救急看護領域の知識や技術に熟達し、的確な判断に基づいた確実な救命技術の実践や指導を行っていききたいと思います。しかし、自分一人ですることは限られていますので、適切でよりよい医療を提供していくためには、医療にかかわるすべてのスタッフがチームとして活動し、十分なコミュニケーションをとりながら協働していくことが重要であると考えます。皆が同じ目的に向かった専門性の高い技術の提供ができるよう情報の共有を行い、専門的知識や技術の維持や向上が図れるよう教育や指導を行い、地域住民の救急医療ニーズに応えていききたいと思います。



村田千代 法人顧問が県勢功労者表彰を受賞しました



村田千代 法人顧問が、このたび平成28年度県勢功労者表彰を受賞しました。

この賞は、昭和55年に創設された県表彰の最高位に位置するもので、今年度は社会福祉、産業振興、保健医療の各分野において尽力され、多大な貢献をされた4名の方々が選ばれました。

村田法人顧問は、本学附属病院看護部長、岩手県看護協会会長等を歴任され、看護職員の資質の向上に尽力するとともに、看護職の視点から病院経営の安定化や医療の質の向上に努めるなど本県保健医療の充実に貢献したこと、多年に亘り臨床の第一線で活躍し、看護基礎教育の充実に尽力するなど看護の向上発展に貢献したことなどが高く評価されました。

5月25日(水)には、知事公館にて表彰式が行われ、達増拓也 岩手県知事より、功労に対する敬意と感謝の意とともに表彰状と記念品が授与されました。

附属病院薬剤部 氏家悠貴 薬剤師と薬学部6年 小暮惇史さんが 日本病院薬剤師会東北ブロック第6回学術大会において優秀ポスター賞を受賞しました

この度、日本病院薬剤師会東北ブロック第6回学術大会(平成28年5月21日～22日;福島県郡山市にて開催)におきまして、附属病院薬剤部、氏家悠貴 薬剤師(写真 中央左)と薬学部臨床薬剤学講座6年生、小暮惇史さん(写真 中央右)が優秀ポスター賞を受賞しました。氏家悠貴薬剤師は、「小児領域における造血幹細胞移植の前処置レジメンによる悪心・嘔吐に対するオランザピン・NK1拮抗薬併用療法の有効性と安全性の検討」という研究テーマで、がん化学療法における支持療法のエビデンスが乏しい小児がん領域で、新規制吐剤の有効性を調査したことが高く評価されました。また、小暮惇史さんは、「医療従事者の抗がん剤吸入を防止するマスクの性能評価」という研究テーマで、エアロゾル化した抗がん剤の吸入毒性防止という観点で活性炭マスクの有効性を試験した新規性が高く評価されました。優秀ポスター賞は、複数の査読委員の厳正な審査により96演題から4演題が選出され、うち2演題が岩手医科大学の受賞でした。参加の先生方より臨床と研究・教育が理想的に機能していると賞賛を頂き、岩手医科大学の存在感を大きく提示できた学会でした。



(文責 薬剤部/薬学部臨床薬剤学 佐藤淳也)

120th
NEWS

記念誌編纂に係る歴史資料等の寄贈について(お願い)

創立120周年記念事業の一環として、史料整備専門部会(部会長:祖父江憲治学長)では、「記念誌」の発行に向けた、歴史資料の整備を進めております。

本学の歴史に関わる写真や文書、手紙、物品等についてお心当たりがございましたら、ご寄贈またはご貸与下さいますよう、特段のご支援をよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先

企画部 創立120周年記念事業事務室(内線7022) / E-mail:anniv@j.iwate-med.ac.jp

学校法人岩手医科大学

平成27年度決算

消費税増税や建築資材などの高騰が、附属病院移転計画を含む本学の経営に大きな影響を及ぼしている中、財政基盤の更なる強化に努めなければなりません。

このような環境下において、本学は教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、各事業を推進しています。創立120周年記念事業関係では矢巾新病院のエネルギーセン

ター棟を整備し、また、医療関係では病院各種機器の整備などを行いました。

平成27年度事業活動収支決算は、医療収入などが増加した一方、人件費や医療経費及び業務委託費などの諸経費の増加により、当年度収支差額△18億8,230万円を計上しました。

1. 事業活動収支

(1) 事業活動収入

事業活動収入の合計額534億492万円は、前年度比21億8,888万円(4.3%)増加、予算比では1億2,444万円(0.2%)下回りました。

- ① 学生生徒等納付金84億6,321万円は、前年度比1億7,169万円(2.1%)増加しました。主な増加要因は、医学部定員増の学年進行によるものです。
- ② 医療収入340億4,897万円は、前年度比9億834万円(2.7%)増加しました。附属病院医科の医療収入は、前年度比15億8,951万円(6.3%)の増加、歯科医療センターは5,892万円(5.0%)の増加、循環器医療センターは5億849万円(10.5%)の減少、花巻温泉病院は2億7,042万円(19.3%)の減少、PET・リニアック先端医療センターは3,882万円(11.2%)の増加となりました。
- ③ 補助金合計額は、63億931万円の前年度比13億423万円(17.1%)増加しました。区分別では、教育活動収入の経常費等補助金46億3,783万円は前年度比8,388万円(1.8%)減少し、国庫補助金として私立大学等経常費補助金21億1,318万円、医療研究開発推進事業費補助金(いわて東北メディカル・メガバンク機構)8億4,409万円等、地方公共団体補助金として革新的医療機器等開発事業補助金4億8,002万円、高度救命救急センター運営費補助金2億5,619万円等がありました。特別収入の施設設備補助金16億7,147万円は前年度比13億8,811万円(489.9%)増加し、国庫補助金としてスマートエネルギーシステム導入促進事業費補助金(経済産業省)7億3,347万円、地方公共団体補助金として災害医療体制等整備費補助金(岩手県)7億5,960万円等がありました。

(2) 事業活動支出

事業活動支出の合計額496億5,877万円は、前年度比13億4,256万円(2.8%)増加、予算比では1億4,429万円(0.3%)上回りました。

- ① 人件費210億4,758万円は、前年度比5億9,536万円(2.9%)増加しました。給与、賞与、所定福利費の合計196億2,172万円は、前年度比4億3,186万円(2.3%)増加し、退職金と退職給与引当金繰入額の合計13億9,500万円は、前年度比1億6,348万円(13.3%)増加しました。
- ② 医療経費147億7,538万円は、前年度比9億5,140万円(6.9%)増加しました。医薬品費は、前年度比8億1,820万円(11.1%)の増加、医療材料費は1億2,653万円(2.0%)の増加、給食材料費は667万円(2.9%)増加しました。医療収入に対する医療経費割合は43.4%となり、前年度の41.7%を1.7%上回りました。
- ③ 消耗品費10億4,739万円は、前年度比1億1,534万円(9.9%)減少しました。
- ④ 光熱水費は、重油料2億2,728万円、ガス料1,700万円、電気料6億3,388万円、水道料1億9,403万円、合計10億7,219万円となり前年度比1億7,372万円(13.9%)減少しました。
- ⑤ 修繕費は、施設修繕費1億8,230万円、機器備品修繕費2億726万円、合計3億8,956万円となり前年度比3,215万円(7.6%)減少しました。
- ⑥ 業務委託費41億5,562万円は、前年度比3億1,328万円(8.2%)増加しました。部門別では、附属病院医科19億4,241万円、歯科医療センター1億1,184万円、循環器医療センター3億3,570万円、花巻温泉病院1億5,435万円、その他16億1,132万円です。
- ⑦ 減価償却額35億677万円は、前年度より1億4,559万円減少しました。
- ⑧ 租税公課1億5,561万円は、消費税1億299万円、法人税・事業税等3,039万円、固定資産税・都市計画税1,017万円、不動産取得税946万円等です。
- ⑨ 福利費1億8,769万円は、学生福利費2,752万円、職員福利費1億6,017万円であり、健康診断経費等です。
- ⑩ 資産処分差額1億4,514万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

2. 資本収支

(1) 資産の部

- ①施設関係支出は、建物3,100万円、建設仮勘定50億4,955万円等です。
- ②設備関係支出9億8,126万円は、教育研究用機器備品8億7,097万円等です。
- ③第2号基本金引当特定資産は、45億円を積み立て、30億8,641万円を取り崩しました。
- ④貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料4億3,870万円、歯科貴金属487万円、合計4億4,357万円です。

(2) 負債、純資産の部

- ①退職給与引当金残高96億2,223万円のうち40億8,936万

円は、平成23年度から10年間毎年度均等に繰り入れている退職給与引当金特別繰入額の累積額です。

- ②前受金残高14億2,299万円は、平成28年度入学生の学生生徒等納付金等です。
- ③預り金残高5億9,386万円は、源泉所得税5,210万円、県市町村民税1億398万円、私学共済掛金1億2,438万円等です。
- ④基本金は56億2,844万円を組入れし、1,113億432万円となりました。
- ⑤当年度収支差額△18億8,230万円と前年度繰越収支差額△213億7,594万円を合計した翌年度繰越収支差額は、△232億5,824万円となりました。
- ⑥純資産の部合計(基本金+繰越収支差額)は、前年度より37億4,614万円増加し、880億4,609万円となりました。
- ⑦平成27年度末現在で作成する財産目録純資産額(資産総額-負債総額)は880億4,609万円です。

平成27年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	8,463,205	人件費	21,047,582
	手数料	257,774	医療経費	14,775,382
	医療収入	34,048,968	消耗品費	1,047,388
	寄付金	1,196,436	光熱水費	1,072,187
	経常費等補助金	4,637,832	修繕費	389,563
	付随事業収入	1,525,115	業務委託費	4,155,625
	雑収入	1,108,242	減価償却額	3,506,770
		その他の諸経費等	2,701,882	
	教育活動収入計	51,237,572	教育活動支出計	48,696,379
教育活動外収支	受取利息配当金	72,499		
	教育活動外収入計	72,499	教育活動外支出計	0
特別収支	その他の特別収入	2,094,848	資産処分差額	145,136
			その他の特別支出	817,260
	特別収入計	2,094,848	特別支出計	962,396
	事業活動収入合計	53,404,919	事業活動支出合計	49,658,775
	基本金組入額合計		△5,628,440	
	当年度収支差額		△1,882,296	

平成27年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,463,205	人件費支出	21,085,316
手数料収入	257,774	諸経費支出	24,112,366
寄付金収入	1,575,241	施設関係支出	5,093,851
補助金収入	6,309,304	設備関係支出	981,264
付随事業収入	1,525,115	資産運用支出	4,501,586
医療収入	34,048,968	その他の支出	3,888,547
受取利息・配当金収入	72,499	資金支出調整勘定	△5,405,469
雑収入	1,108,242	翌年度繰越支払資金	18,331,875
前受金収入	1,422,994		
その他の収入	12,690,819		
資金収入調整勘定	△10,720,264		
前年度繰越支払資金	15,835,439		
収入の部合計	72,589,336	支出の部合計	72,589,336

貸借対照表 (平成28年3月31日)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	77,173,947	固定負債	10,135,713
有形固定資産	56,115,998	流動負債	7,121,182
特定資産	20,933,736	負債の部合計	17,256,895
その他の固定資産	124,213	純資産の部	
流動資産	28,129,034	基本金	111,304,323
		繰越収支差額	△23,258,237
		純資産の部合計	88,046,086
資産の部合計	105,302,981	負債及び純資産の部合計	105,302,981

高度看護研修センター認定看護師教育課程 開講式ならびに公開講座が行われました

6月1日（水）、創立60周年記念館8階研修室において、緩和ケア認定看護師教育課程の開講式が行われました。

第5期生となる今年度の研修生11名を代表して、秋田赤十字病院の伊藤知佳さんより「認定看護師として、実践・指導・相談の役割を發揮できるように自己研鑽に努めていく」との宣誓がありました。



また、6月21日（火）には、高度看護研修センターのオープンキャンパスの一環として、北海道医療大学大学院名誉教授の石垣靖子先生を招いて「QOLの概念とQOLを高めるケア」と題した公開講座が行われました。

緩和ケアの道を志す看護職員ら多数の参加者は、ホスピスケアの先駆者であり、日本の緩和ケア分野を牽引される石垣先生の講義に熱心に耳を傾けていました。参加者は講義を通じて、看護師が日常生活過程を整えることの意義と、その人をかけがえない人として尊重し、その人の最善を目指すことの重要性について、理解を深めた様子でした。



教養教育センター野外活動が 行われました

6月4日（土）、安比高原において教養教育センター野外活動が行われ、3学部第1学年の学生340名と教職員30名が参加しました。

この活動は、野外で自然に親しみ、学部間における学生の交流を深め、学生と教職員との親睦をはかることを目的として毎年開催されています。

参加した学生は、ブナ林の散策やハイキング、オリエンテーリングなどを体験し、自然に親しむとともに、学友や教職員との交流を深めました。



ウェルカム2016が行われました

6月10日（金）、歯科医療センターにおいて、歯と口の健康週間にちなんだイベント「ウェルカム2016～健康も 楽しい食事もいい歯から～」が行われました。

イベントでは、各診療科によるパネル展示や栄養部による試食、歯科材料（石膏）を用いた人形のプレゼント（写真）、唾液測定によるストレスチェック、歯科用CAD/CAM*の体験コーナーなどが設けられ、一般市民の方々や教職員が歯の健康に関する知識を深める機会となりました。

*コンピュータによる歯冠修復物や口腔インプラント等の設計・製作



ライオンズクラブ国際協会様から本学 眼球銀行へ寄附金が贈呈されました



6月20日（月）、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナーである筒井学様が来学され、本学眼球銀行（岩手医大アイバンク）に、約137万円のご寄附がありました。同協会からの寄附金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。

アイバンクの総裁である祖父江憲治学長からは、「目の不自由な方に役立てたい」として、同協会へ感謝状を贈呈しました。

附属病院外来コンサートが行われました

6月25日（土）、附属病院外来1階待合ロビーにおいて、岩手県民オーケストラによるコンサートが開催され、入院患者さんやご家族、教職員ら約100名が迫力のある演奏を楽しみました。

このコンサートは、入院中の患者さんへの励ましと癒しを提供することを目的として、年2回開催されています。約40名の楽団は、「スター・ウォーズ」「沢内甚句」「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」など7曲を演奏したのち、アンコールにも応えるなど、心のこもった演奏を披露しました。



編集委員コーナーNo.8「大学周辺のお店めぐり ～矢巾 おとうふのとくたや～」

今回は、矢巾キャンパス近くのランチがおいしいお店をご紹介します。

矢幅駅から岩手医大矢巾キャンパスに向かって歩いて行くと、公園のすぐ先に「おとうふのとくたや」があります。入り口には、大きく「と」と書かれたさわやかな白いのれんが出ています。お店に入って、右側にはお豆腐や厚あげ、がんもどきなどが並び、左側スペースでランチをいただきます。

ランチは豆ごはん、寄せ豆腐、お味噌汁、小鉢、お漬物という、とてもヘルシーなセットです。お値段は500円のワンコイン。できたての寄せ豆腐はなめらかで、すっきりとした旨味と豆の甘みを感じます。またほんのりとした塩味の豆ごはん、熱々で野菜たっぷりのお味噌汁も、しみじみと、ほっとするお味です。そしてお漬物も含め、すべて手作りという、疲れた身体にとっても嬉しいメニューをいただくことができます。

「とくたや」さんのランチは平日11:30～13:30です。場合によっては売り切れ次第終了のこともあるそうです。豆ごはんを白いごはんに変更することもできますが、ぜひ、豆ごはんを食べていただきたいです。

（編集委員 藤澤美穂）



シリーズ 職場めぐり

心臓血管外科学講座

心臓血管外科は設立20年となる循環器医療センターで、後天性、先天性心疾患、大動脈から末梢血管疾患にいたるまで、また新生児から超高齢者にいたるまでの幅広い心臓血管外科治療を行っています。特に循環器内科や小児科、麻酔科、放射線科、看護師、理学療法士、臨床工学士らと、建物だけではなくシステムとしてHeart teamを結成し、毎朝カンファレンスを行い緊密な連携や情報共有に努めています。最近ではHybrid手術室にて経カテーテル大動脈弁置換術やステントグラフト内挿術などの低侵襲手術にも取り組んでいます。また北東北3県の地域医療の担い手として緊急手術にも対応しています。術後急性期は2床増床された12床のICUで集中治療管理を行い早期離床を目指し、47床の一般病棟では心臓リハビリを積極的に行い

合併症予防に努めています。2016年4月からは新たに3名の医局員を迎え、総勢11名で診療、教育、研究に励み手術件数増加に取り組んでおります。

(特任講師 小泉淳一)



小児歯科学・障害者歯科学分野 口腔保健育成学講座

平成26年度からそれまでの小児歯科学分野と障害者歯科学分野が統合されて小児歯科学・障害者歯科学分野という名称になりました。外来についても統合して、小児歯科・障がい者歯科になりましたが、新病院ができるまではそれぞれ旧診療室で活動しています。

小児は成人の基準で対応するべきではないことは医科も歯科も同じです。少子化の時代だからこそ小児により望ましい歯科を提供する必要がある、それを実践できる人材の育成が求められています。小児の心理に寄り添う事ができる歯科医の教育が大学病院小児歯科の使命だと思います。

障害児(者)もそれぞれの障害の種類、程度に応じてきめ細やかな対応が求められ、その治療には多くのスタッフの協働が必要になります。全身麻酔を用いた

日帰り歯科治療とその後のメンテナンスケアを通して、地元開業医の先生方と連携した、大学病院障害者歯科としての役割を果たして行きたいと考えています。

(教授 田中光郎)



岩手県こころのケアセンター (久慈地域センター)

久慈地域こころのケアセンターは、久慈保健所管内(久慈市・洋野町・野田村・普代村)の地域を担当しております。酒井センター長、大塚副センター長の指揮系統に基づいて日々の活動を行っております。

当センターは、久慈地区合同庁舎の一室をお借りして、専門職6名、事務職2名で構成され、中央センターと協力して東日本大震災津波後の地域住民への訪問活動や相談室での相談支援、地域住民・ボランティア・従事者への普及啓発活動や人材育成等の支援を地域の他機関と連携を図りながら活動しております。

被災地は復興途上にあり、住民も生活上の困難を長期間抱えているため、様々な健康問題を抱えています。今までの疲れが最近出てきたり、メンタルヘルスや持病の悪化、新たな健康問題等を抱えた方もおられます。

同管内は震災前から岩手医科大学で先進的な自殺対策の取り組みを実施してきた地域です。今後も支援の手を緩めることなく、丁寧な活動を心がけて参りたいと思います。

(主任 岡田依知奈)



理事会報告（5月定例－5月30日開催）

1. 平成27年度事業報告について
2. 平成27年度決算及び監査報告について
3. 矢巾キャンパス隣接町道拡幅工事に伴う矢巾町への土地譲渡について
4. 任期満了に伴う監事の選任について
監事 小野寺 勲（再任）
監事 池田 克典（再任）
（任期 平成28年8月1日から平成30年7月31日まで）
5. 医学部学生副部長の選任について
医学部学生副部長 小原 航（泌尿器科学講座 教授）
（任期 平成28年6月1日から平成31年3月31日まで）
6. 薬学部講座再編に伴う組織規程の一部改正等について
薬学部教育の中心的な役割を担う部署として薬学教育学科を新設したいこと、現行の地域医療薬学科を地域医療薬学講座

に昇格させたいこと、モデルコアカリキュラム改訂による教育内容の変更に対応するために担当分野を明確化する目的で現行の微生物薬品創薬学講座を情報薬科学講座に変更したいこと、教員定員については、現薬学部定員総数67名の枠内で調整し、研究費、教授室・研究室についても当分の間、変更しないこととして組織規程第3条関係別表2教育研究組織機構図を一部改正したい旨、承認

（施行年月日 平成28年6月1日）

7. 組織規程 別表3-1 附属病院組織機構図の一部改正について
8. 平成29年度学納金の改定に伴う学則の一部改正について
9. 病院システムのリプレースについて
10. 矢巾新附属病院の建設工事費について

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 米澤 裕司
影山 雄太 山尾 寿子
松政 正俊 菊池 初子
齋野 朝幸 佐々木さき子
成田 欣弥 佐々木忠司
佐藤 仁 熊谷 佑子
藤本 康之 畠山 正充
白石 博久 菅原 侑子
藤澤 美穂 武藤千恵子
高橋 慶

編集後記

表紙の夏の夜空に輝く大三角、街の灯りがあっても探せるでしょうか…日々の喧騒を忘れ夜空を眺めてみたくなりました。

また、夕空に響くさんさ太鼓の音も熱をおびてまいりました。本学のパレードに参加される皆様のご健闘をお祈りしています。私のもっぱら鑑賞組で、伝統さんさ「清流」の流麗な踊りや若者グループのダイナミックなアレンジ、加藤家というパフォーマンス集団もお気に入りです。本学の応援と共に他団体もぜひお楽しみ下さい。

（編集委員 佐々木さき子）

岩手医科大学報 第478号

発行年月日 平成28年7月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111（内線7023）

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

泌尿器科学講座 助教 松浦 朋彦



腎不全には腎移植という選択があります

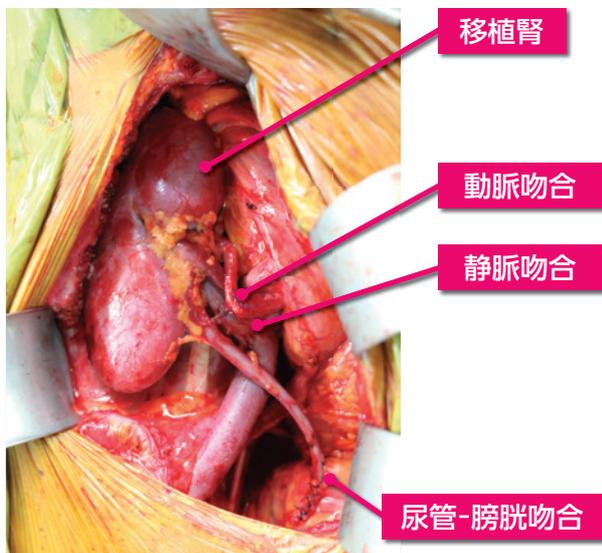
腎臓は体の中に2つ存在し、①水分に体内の老廃物を混ぜて排出する②赤血球を作るホルモンを産生するという大事な役割を担っています。この腎機能が廃絶した場合の腎代替療法として、血液透析、腹膜透析、腎移植と3つの選択肢がありますが、日本では血液透析の割合が圧倒的に高く、2014年度の統計では約32万人が血液透析を受けています。

日本の血液透析技術は世界でもトップクラスで、血液透析患者であっても寿命を全うできるほどの長い生存期間を得られるようになった一方、治療時間や食事面での制約が多いのが難点です。また患者数の増加によってベッド数や透析施設スタッフの確保といった医療資源や、増大する医療経済の面でも大きな問題を抱えています。一方、腎移植は生体にとって最も理想的な治療法で、ドナーの確保と手術を受ける必要はありますが、QOLは保たれ、医療経済にも大きなメリットがあります。しかし、日本において患者数に対する施行件数は多くなく、全国で2014年に行われた腎移植は生体腎・献腎（心停止/

脳死）合わせ、1598例、その中でも東北地区の腎移植実施割合は3.7%と最も低く、残念ながら岩手県は移植件数が最も少ない県でした。

この状況を打破すべく、現在泌尿器科では積極的に腎移植件数を増やす取り組みを始めています。院外においては県内の透析関連病院を中心に医療従事者への情報提供を行っており、昨年度から岩手県腎移植推進研究会を主催する事によって、他施設との連携を図っています。以前は岩手県内で腎移植が可能であった施設は岩手医大のみでしたが、現在は岩手県立胆沢病院でも腎移植が可能で体制が整っており、今後の広がりが期待されます。院内においては関連部署（泌尿器科病棟、外来、透析室、集中治療室、手術室、検査部、薬剤部、栄養部、事務）と腎移植ミーティングを開始しました。本ミーティングを通じてよりスムーズでトラブルのない腎移植医療を推進していきたいと考えています。

現在腎移植は免疫抑制剤の進歩によってABO不適合のような免疫学的にリスクの高い患者においても可能となり、透析を経ずに行われる先行的腎移植も一般的になっています。身近に透析を受けている方や腎不全の方がおりましたら一度担当医に相談するようアドバイスをしてみてはいかがでしょうか。



第一回腎移植ミーティング